〇ヒメヤナギラン日本に産す(山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: Epilobium latifolium L. newly found in Japan

1986年の夏、北岳の山小屋を管理している深沢今朝光氏は近くの標高 2800 m あたり の砂礫の多い草地で美しいアカバナ属の植物を採集した。調べてみると Epilobium latifolium L. であり、これはシベリア、カムチャッカ、アラスカ、グリーンランドな ど、アジア、アメリカ、ヨーロッパ大陸の北極圏に広く分布するもので、日本では初め てである。ヤナギランに似て花が大きいが丈は低いので綺麗な植物である。この様な美 しいものがどうして今まで見付からなかったか不思議である。アラスカではそう珍しい ものでなく目立つ植物なので、誰かが種子をまいたのでないかという恐れもないではな いが、証明できないことだし、現在全く人の入らない所に生えている事は事実である。 たお、アリューシャン列島のアッツ島の植物写真(杉山吉良,北限の花 アッツ島再 訪、1979) にヒメヤナギランという和名がつけられているのを見つけた。この本の植物 名はいいかげんな名がつけられているものが多いが、和名としては唯一のものなので、 ヒメヤナギランの名を採用する。

Epilobium latifolium L.-Pref. Yamanashi, near Mt. Kitadake, in herbages on stony places at altitude of 2800 m (K. Fukazawa, Aug. 1986, TI).

(東京大学 理学部附属植物園)

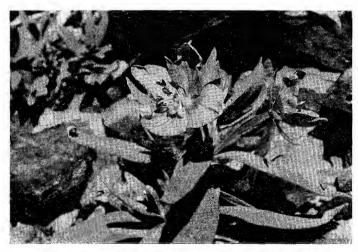


図 1. ヒメヤナギラン Etilobium latifolium L. (深沢今朝光氏 撮影).